

文京区「歯と口の健康づくり 2019」講演会

# 講演会のご案内

演題 「口と子どもの発達」

演者 榊原 洋一 氏（お茶の水女子大学 名誉教授）

日時 6月20日（木）午後2時30分～3時30分

☆ 本講演は昭和38年、第1回「文京区歯の祭典」から数えて57回目を迎える、文京区「歯と口の健康づくり2019」の企画の一環として行われます。講演後により歯の図画・ポスターの表彰等も行いますので一緒にお祝いいただければ幸いです。

場所 文京シビックセンター2階 文京シビックホール 小ホール

聞き慣れないタイトルだと思いますが、口は子どもの発達の中で極めて重要な位置を占めています。生まれたばかりの赤ちゃんが生きてゆくことができるのは、生まれつき備わった吸てつ能力で母乳を力強く飲むことができるからです。

生後7ヶ月くらいまでは、吸てつと歯茎で柔らかい食べ物をませ、咀嚼するだけですが、歯が生えると様々な硬さの食物を食べるという適応能力が身に付きます。

口には人の発達に欠かせないもう一つの重要な機能があります。それは言葉を喋るという能力です。身体の維持に必要な栄養摂取と人のユニークな特徴である言葉の使用、そして人の発達に不可欠な口の機能についてお話します。



プロフィール 榊原 洋一（さかきはら よういち）  
お茶の水女子大学 名誉教授

1951年東京生まれ。1976年東京大学医学部卒業。小児科、とくに小児神経学、発達学が専門。東京大学講師をへて、2004年お茶の水女子大学教授、副学長を経て、現在お茶の水女子大学名誉教授。日本子ども学会理事長、チャイルドリサーチネット所長、BPO 青少年委員会委員長。著書：「アスペルガー症候群と学習障害」「子どもの脳の発達、臨界期、敏感期」「脳科学の壁」（以上講談社）、「脳科学と発達障害」（中央法規）など。